

Handwritten notes and signatures in the top right corner.

艦本機密第二二一〇號

大正十一年六月十五日

至急

大角海軍省軍務局長殿
岡田海軍艦政本部長

軍艦加賀回航ニ關スル件

軍艦加賀回航ニ關スル諸準備ハ六月末ヲ以テ畧竣ニスル豫定ニ付七月十日以後ハ回航差支ヘナカルヘク候條或回航ノ指定回航員ノ任命官給品ノ供給ノ準備方取計ハレ度
右照會ス

0029

四二二

海軍

終

(納原裁)

機造牛葉十一行昇紙

11.6.16

軍務局長

加賀中統計

第一 中統第一課長

局員



本訂員八名 正一系三月通用
練習員 於中統員セルモノ

一 富士準備 (1) 4 對多 築五課長

(1) 後甲板後部ニ特製平ヨリクヲ裝備ス

(2) 曳船用七吋半ハシチントスリツプヲ準備ス (ハ時綱索、曳索ニ相當スルモノ)

二 加賀準備
(1) 横須賀港務部ヨリ曳索端ニ附スル浮標一個ヲ借用準備ス

(2) 曳船中ノ風壓ヲ減シ操舵能力ヲ増進セシムル爲適當ナル個所ニ海水ヲ漲リ吃水ヲ約三十五呎トス

(3) 操舵機設備ヲ行フ

(4) 揚鎖機取撤作働用並賄所用トミテ「ドンキ」ボイラーヲ裝備ス要スル附帶設備ヲ行フ

(5) 船窓遮門及上甲板諸孔ヲ水防ス

(6) 港上官以上六人下士官兵百二十人ニ對スル居所兼寢所 (前懸橋附近ヨリ) 賄所便所

點燈等ノ居住設備ヲ行フ

(7) 防火用トミテ移動唧筒二個消火器若干ヲ準備ス

(8) 後部ニ後鎖準備 (鎖新ニ頓鎖索約四吋、鋼索ニ房) ヲナス

(9) 海上衝突預防法規定ノ燈火ヲ準備ス

(10) 簡章十枚傳子一冊、簡章ヲ設備ス

(11) 原タリシニ隻及五ニ要スルヨリ「ド」チークル等ヲ兩機ニ分テ準備ス

(12) 抵抗ヲ減スル爲推進器ヲ撤去ス

(13) 次ノ諸要員ヲ準備ス

八 叶綱索 二房 (曳索)

三 叶綱索

一 房 (曳索引込索)

大 叶綱索

1300

「三ノノ」大ニ個 小ニ個
 「三ノノ」大ニ個 小ニ個 (東東運結用ニテ加賀箱箱用ニテハ三ノノ大ニ個用ニテ可ナリ)
 其他 運用 雜具 上面

第二 奥統 諸元

富士 加賀 要目

船名	吃水	排水量 (噸)	主機 (馬力)	全長 (m)	最大幅 (m)
富士	2.6	123.0	2300	40.4	7.3
加賀	2.3	33.0	300	9.8	1.05

二 抵抗概算

算式 $R_{fu} = \frac{D^2 \times V^2}{K}$
 $R_{fu} = \frac{6000 \times 10^2}{R_{fu}}$

R_{fu} = 船速及進取抵抗 (噸)
 R_s = 船速及進取抵抗 (噸)
 K = 係數 (4000)

速力	富士 R_{fu}	加賀 R_{fu} + R_s	富士加賀合係抵抗
4	2.3	5.7	8.0
5	4.1	9.3	13.4
6	6.0	13.4	19.4
7	8.1	18.2	26.3

1. 加賀 吃水 1.90m 場合 $\frac{100}{100} R_{fu}$
 吃水 1.90m 場合 $\frac{100}{100} R_{fu}$
 吃水 2.50m 場合 $\frac{100}{100} R_{fu}$
 2. R_{fu} = 船速及進取抵抗 = 算出量 (三ノノ加賀)
 富士 1.78 算出量 八割 三割五加賀 三ノノ算出量 八割

一房ハワイヤシハ内ニ並列結止ス又曳索ノ前端ハワイヤシ内ニ繫止ス也ニ
三時鋼索ノ房ヲ附ス

(1) 富士ハ曳航當日早朝和田岬沖約五哩水深十五尋内外ノ地奥ニ錨場ヲ換
ヘ曳航準備ヲ終ル

(2) 會社ハ曳航當日早朝加賀ヲ曳キ出シ曳索保排ヲワイヤシトシテ先ニ五ノ富
士ノ錨場ニ近キ三時鋼索ヲ富士ニ渡ス

富士ハワイヤシレックヲワイヤシトシテ使用シ上記三時鋼索ヲ後甲板ニ取リ込ミ曳キ張
ルワイヤシハ曳索ニ張力ノ加ハルニ從ヒ後方ヨリ漸次其結止ヲ切リ曳キ繰出

ル富士ニ近キ曳索ノ前段ヲ富士ニ渡シ曳索ハ曳索ノ前段ヲ取リ終
ラハ曳キ曳航用ヲリワイヤシトシテ曳ス

二曳航開始

(1) 曳索ヲ取リ込ミ終ラハ富士ハ錨ヲ揚ケ徐口ニ前進力ヲ附ス加賀ハ此際
曳索ニ張力ノ加ハルニ從ヒ其結止ヲ切リ曳キ繰出ス加賀ハ錨ノ鎖鎖ニ即

チ甲板ニ取リ込ミワイヤシトシテワイヤシレックヲワイヤシトシテ曳キ繰出
ストッパトシテ曳ス

(2) 前項ノ作業ヲ終ラハ富士ハ行進ヲ起シ漸次回頭ヲ增加シ曳索ハ先
ツ八節ノ回頭ニ達セシテ速度力及馬力ヲ速定シ其結果ニ於テ差支ハナク漸

次速定五節五對スル回頭ニ達セシム

(3) 加賀ニ附セル曳索ハ曳航開始後モ富士ヨリ何介ノ通知アル迄ハ其位置直ニ止
マリ第一ニ備フルモットス又友ヶ島水道ノ通過ヲ終ル迄ハ曳索ハ其位置直ニ止

隨行セシムル豫定ナリ

(4) 横濱科ニ於テハ曳索ノ推進力ノ軸前ノ員荷ニ注意シ其増大ヲ見ハ直ニ船橋直
知テ曳索トス

(5) 加賀ノ推進器ヲ除去セザル場合ハ曳索ノ固定ニテナク自然ノ誘轉ニ任セトス

三 横濱曳索準備要入作業
(1) 富士ハ曳索ノ準備要入到着時刻ヲ港務部ニ通知シ港務部ハ令時刻

(1) 富士八上記地前二邊七八一略行進ヲ停止ニ身船覆ハ前曳キノ準備ヲ
 十二他ハ加賀ニ横付及後曳キノ準備ヲ十三又加賀ハ伸出ル船鎖ヲ捲込
 三曳索ヲ離脱ス
 (11) 右ノ作業ヲ終リハ富士八曳索ヲ取リ込ム

第四 曳航行動中ノ天候ニ関スル通信

- 一 神戶出港時迄ノ氣象ハ五十三ノ神戶梅澤ノ氣象ニ於テ調査ス
- 二 調査事項次ノ如シ
 - (1) 低氣壓及高氣壓ノ状況
 - (2) 曳航海面ノ氣象ノ状況
 - (3) 向ノ音間ニ於テノ氣象ノ基ニ天候ニ関スル見込
- 三 朝ノ押止ニ於テノ風向風力並波浪ノ大小及其方向ハ本體ノ請求ニヨリ
 隨時潮押海岸向ヨリ無線通報ノ下ニ神ノ決定ス
- 四 神戶出港後ハ横濱賀領岸府參謀長ヨリ左記各項ノ無線通報ヲ受ケル下
 二枚送ス
 - (1) 毎日午前六時正午午後六時ニ於テノ低氣壓及高氣壓ノ状況(本件ニ関ス
 無線通信ノ下ニ場合ニ當テノ解信ヲ求メノ通報ニ換テ)
 - (2) 毎日午前六時正午午後六時ニ於テノ神ノ位置前出ノ風向風力並波浪ノ大小及
 其方向(長津島望樓ヨリ報告ノ下ニ無線通信ノ下)

第五 雜件

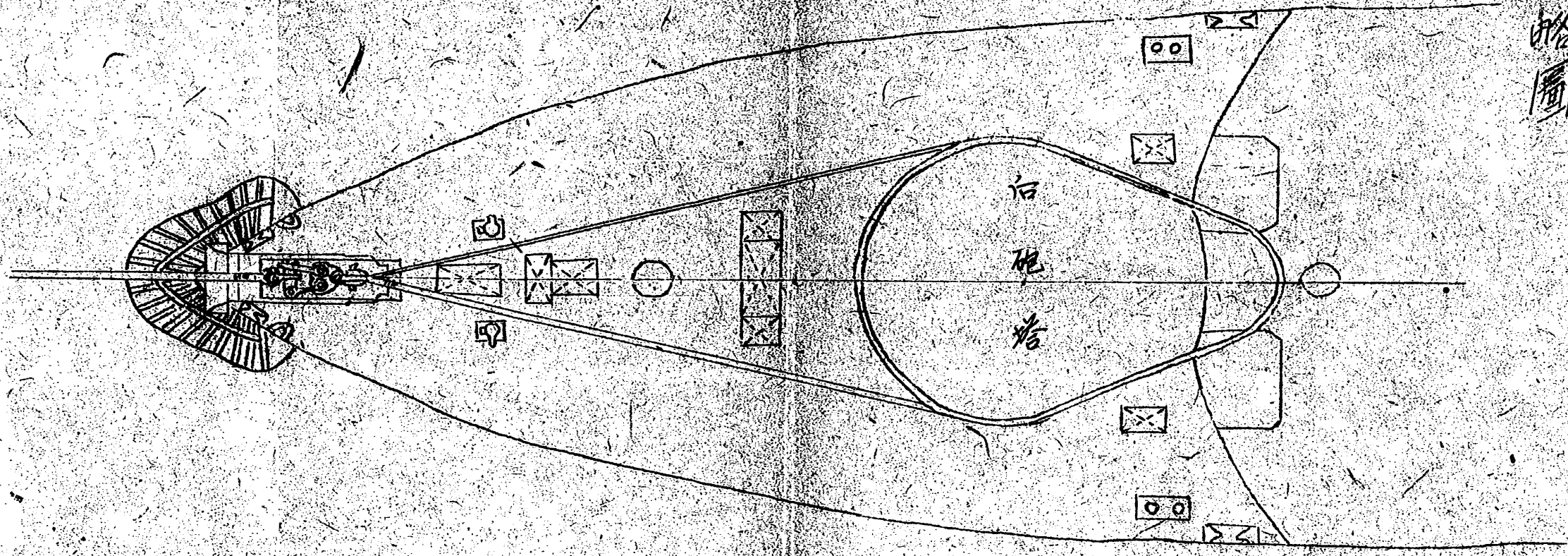
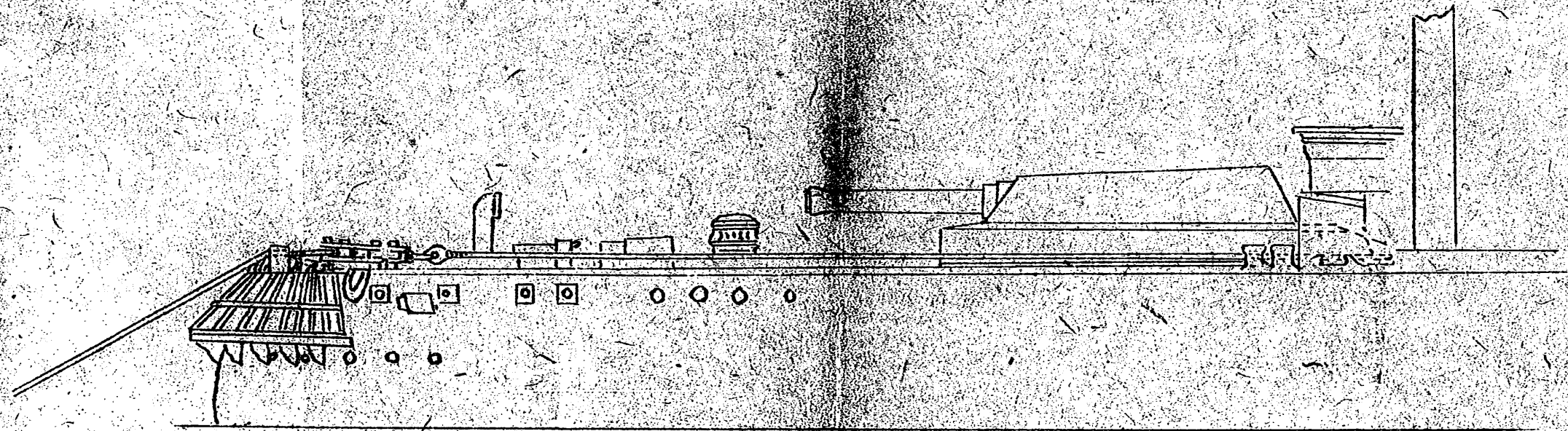
- 一 加賀曳航ニ関スル富士職員主要配置別紙ハ如シ
- 二 富士行動規則別紙ハ如シ(別紙別紙)
- 三 曳航作業ニ関スル電報報告(通報)豫定

2800

四横須賀着後富士丸航準備7機旧又

報告(通報)事項	送	先	通信方法
神戶港豫定(変更)	横須賀官憲務局長	横須賀港務部長	有線
奥州作業(開始)	同	右	無線
奥州作業開始(横須賀)	海軍大臣	横須賀官	同
隨時奥州状況	横須賀参謀長	軍務局長	同
浦賀着時刻豫定	横須賀参謀長	横須賀港務部長	同
航路到着	海軍大臣	横須賀官	有線

(終)



軍艦富士東航設備船圖

加賀良航作業主要配置

全航監督

副長

良航作業實施(實施方案等共)

{ 運用長
士分隊長

良航中被良船良索監視並諸測定

{ 運用長
航海長
士分隊長

諸記錄,整理及良航報告調製

{ 運用長
航海長
士分隊長
運用士
航海士

0039

日發月日

經理印 6.17

大正十年七月十五日

海軍省軍務局

土佐回航ハ別見トスルモ大俣存見

一時期 八月下旬

二早航 八月下旬

三渡海航 八月下旬

長崎航 八月下旬

共上

附箋紙

大正十年六月三日

海軍教育本部

者由航 陸上西多 護所
種多 航 行 郵 由 係 以
スル 極 野 度

0041

抄
下
記
等

回航ニ関シテハ大要左記ニ準據スルコトニ決シ度

(七)

一回航地

神戸ヨリ播磨守野ノ陣迄ニ至ル

二回航時期

神戸発シテ七月十日^頃トシテ定ム

(備考) 一回航時期ヲ七月十日以前ニ結ビ上ルコトハ又ナカドモ

七月十日以後ニ結ビ下ルコトハ八度角後ノ行動ニ関

係スル事トシテ可及的ニ之ヲ避ケルコトヲ要ス

三回航清潔準備

加賀^國回航清潔準備工事ハ別紙ハ如シ一月末全部

完成ノ際定

四度航艦

起案 罪紙(乙)

(一) 国土 (一) 万一 支清ナラ生セル場合
代航 山城

(備考) 国土 成心ノ運ニ 身航ニ 必要ナル 清潔準備ヲ

完成ス 主西女 準備大ニ 好シ (時圖 参考)

(二) 後甲板 後部ニ 特別衣、4 ヲツリ、ヲ 縫合 備ス

(三) 身航用 コアジント スリツ、ニ キャツス、ヲ 掛テ 備ス (八時 鐘
相士 備)

素ノ 身航用
スニ

五 復衛艦

八重云

六 回航 安月 艦

(一) 回航 安月 艦

山ノ 国土 航長

(二) 国土

回航 安月 艦 長ノ 入申ス 及テ 身航

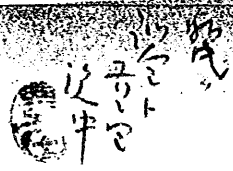
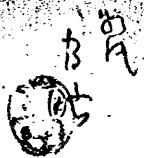
ニ 係ル 其 事務 後 事ナ

(三) 八重云

回航 安月 艦 長ノ 協同 係ル 回航

事

重



四回航員

作其も、同之支撥又復修、任事
回航者、自之長命令ヲ受テ被用
航ノ其事務、復事ス

(備考) 一回航員ノ編制別表、其ノ如ク、捕頭カ員、修

守、府、摩下ノ編制、ヲ以テ之ニ充テ

ニ加、員、後、定、テ、通、稱、ト、叙、シ、ノ、時、期、ニ、由、リ、ヲ、捕

頭、カ、員、ニ、變、更、ス

三、回航員、所、派、遣、ノ、時、期、ニ、由、テ、之、ヲ、決、定、ス

七回航、引、解、ノ、官、給、ス、ル、ノ、高、品、航、世、ノ、由、テ、

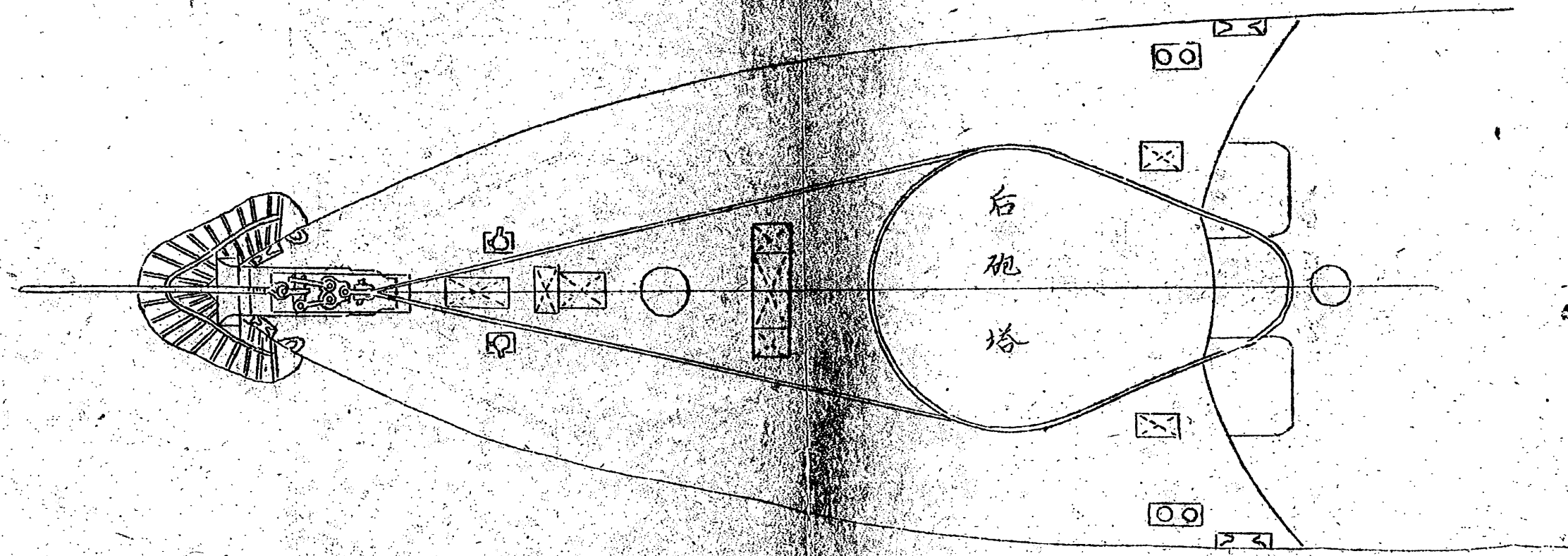
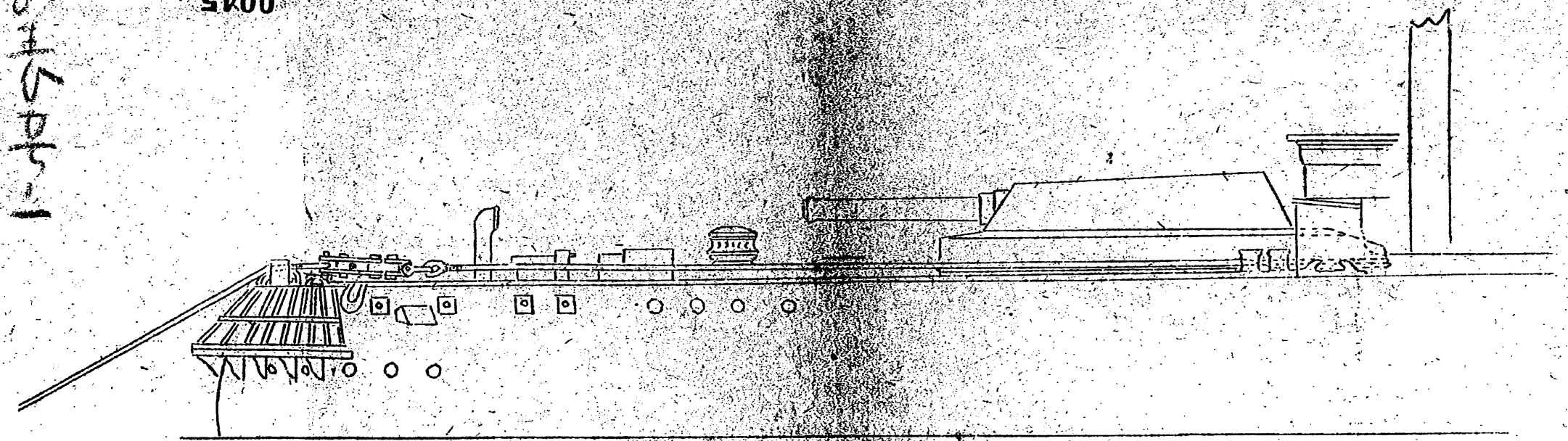
別、紙、其、ノ、通、條、定、ス

八回航、^補、_給、ス、ル、ノ、給、

上、廢、舊、航、解、任、者、ヨリ、別、給、支、給、ス

5045pp-1

0045



軍艦富士曳航設備略圖

舟子

帆

一 加加員林即船中

官房が三九四号二 加加員林即船中

十三名分

二隻分

(但し増加員及舟子十名計五分)

電信2. 舟子10

主計科

三 兵員食糧

十名分

(但し舟夫十名計五分)

主計科

四 配食鍋、燗子等

(二三二附帯一)

船医科

五 古直十復具(布圍及枕)

五名分

(加加員増加乗船者)

主計科

六 毛布

五名分

()

帆 七、
ウイニトニ

二張

0046

船医科 八 帯夜炮

(油マツク、炮心ヲ含ム)

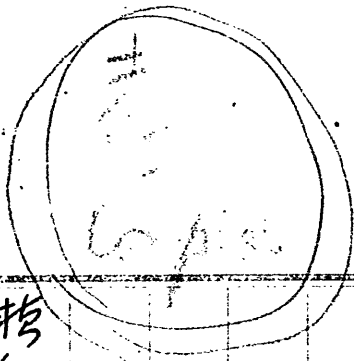
五名分

主計科 九 糧食
十 炊具
十一 洗濯
十二 掃帚
十三 雑用
十四 雑用
十五 雑用
十六 雑用
十七 雑用
十八 雑用
十九 雑用
二十 雑用

主計科 十 靴
十一 靴
十二 靴
十三 靴
十四 靴
十五 靴
十六 靴
十七 靴
十八 靴
十九 靴
二十 靴

靴正要は一打 三基分

0047



信

十一、信多揚種保

(本曾多々用) 五九

海軍

科

其、本、何、年、二、中、加、提、集、員、水、七、政

上、去、長、二、〇、三、名、再、集、員、水、七、政

二、〇、提、集、員、水、七、政

其、工、制、の、ア、ラ、ウ、の、ヤ、一、ト、三、七、五、個

(使用職工一名付)

指、給、長、友、一、尚、古、給、長、友、一、定、村、一、注、本、の、信、道、宜、信、子、二、二、
の、信、子、八、分、一、部、救、急、一、の、的

のり
田
氏

大正十一年六月十九日 神戸海軍監督官事務所

氏家造船監督官



豊田海軍省軍務局々員殿

謹啓

滞京中ハ種々御厚配ニ預リ奉謝候

加賀回航ニ關スル諸件ハ無洩首席監督官、宮村織裝員長並ニ關

係者ニ傳達致置候

右御禮旁々御通知迄

(終)



海軍

0049

下
の
電
報
は
送
り
な
し
と
す
べ
し

軍務局長 大谷

第一課長 藤田

局員 藤田

大正十一年一月二十日午後一時半迄宛々

神戸川崎造船所

宮村加賀守 船政部長宛

電報 (二件)

合同士航長 打合る二十日朝貴地着、候定 申付
官長、上の方、其後、方合思ひ度

海軍

模造半葉十三行紙

(宮井納)

海軍

模造半葉十三行野紙

軍務局長

第一課長

局員

神戸川崎造船所

后田士航長

川崎造船所

山口世

電報

長崎、出張、件、人、ナシ

松鏡二

(宮井納)

0052
050

軍務局

第一課

①

大正十年三月三日 午後 時 分 局發

受信者 加賀艦隊員事務所山口大佐

受信者 軍務局長

電報譯

加賀實地現察ニ鑑ミ土佐ニ豫メ現察ノ必要有リ且ツ今後
時期無キニテ今後九時カシイ少佐ト共ニ長崎ニ向ヒテ直ニ
何分ノ指令ヲ仰グ横須賀長官ニ然ルニク御預ヒヨス

予電ニテ
電報

海軍 機密中 第三十三行 機密

加賀艦隊員事務所
山口大佐

0090

經理局

軍務局

Handwritten notes and stamps at the top right.

大正十年六月二十一日	午後〇時五分	局發
發信者	加賀艦隊員長	局著
受信者 軍務局豊田局員	電報譯	
富士艦長ト協議ノ結果至急打合セヲ要スル件有リ 今夜上京スル艦政本部総務部長ニ傳ル		
濟夜		

海軍

機進平第十三行軍

軍務局印 6.23

誠心堂

起案郵紙

番號

官房第三九〇號

加加身、回航件

大正十二年六月廿九日起案

總務部 11.6.24
 受
 總務部 11.6.24
 受
 總務部 11.6.23
 受
 本艦 11.6.23
 受接
 總務部 11.6.22
 受接
 小監 11.6.22
 發付後起
 案者捺印
 紙

大臣

(主) 軍務局長 久高

第一課長 三行

局員

次官

副官 藤田

參事官

人事局 菅

第一課長 菅

局員

經理局 勝

第一課長 勝

軍務局 中野

第一課長 中野

監政本部 藤田

第四部長 藤田

第五部長 藤田

總務部長 藤田

第二課長 藤田
 第三課長 藤田
 第四課長 藤田

捕、長官 久高

大臣

局部	官房	軍務	人事	監政	機關	醫務	經理	法務	技本	造兵	教育	臨建	水路	軍令
受月日	受月日													
發月日	發月日													

紙用箋附省軍海

大正十二

軍令	水路	臨建	教育	造兵	技本	法務	經理	醫務	機關	監政	人事	軍務	官房	局部
													六月廿四日	受月口發月

本艦
 11.6.23
 受接
 11.6.22
 受接
 發付後起
 案者捺印
 受理局
 11.6.22
 受接

紙用箋附省軍海

大正十一年七月二十日
 海軍省軍務局
 第一四四號及令印之度
 0055

監政	人事	軍務	官房	局部
			六月廿日	受月日
				發月日

發付後起
案者捺印

本艦
11.6.23
受接

電軍
11.6.22
受接

整理司
11.6.22
受接

紙用箋附

大正 年 月 日
 海軍艦政本部 第四部
 此件發布... 左神... 監督... 通知
 方長計... 係... 身... 表... 示... 用

0056

加賀の回航 清津準備宛 魁モ 別紙其ノ一 加賀の回航 要領
依リ令 艦ヲ回航スル 積取計フニ

左訓令ス

退テ 加賀の回航 清津準備ニ 周知令 航ニ 施行スル 工員ナリ

別紙其ノ二 如ク 吉月卜 旬迄ニ 宛成ノ 豫定ナリ 此方人心得

也

海

宣

別紙其ノ一

加賀、同航要領

一 同航地

神六ヨリ横濱、同航要領迄

二 同航時期

神六発ラ七月十日頃ト塚定ス

三 同航艦

同田士 (早之塚備艦、佐生助、榎、東、身、同、言、別、令、ス)

四 復舊艦

八重云

五 同航地

同航 本 指揮官長

山々同田士艦長

同田士

同航 本 指揮官長 今度々 同航要領

毎

重

(三) 八重

スレ作書仕る

八重^{挿入}書仕る長、物候^ノ名ニ航^ノ係

作書^ノ同^ノ文^ノ援^ノ又^ノ復^ノ審^ノ仕る

(四) 航

航^{挿入}本^{挿入}長^{挿入}今^ノ及^ケ被^レ航

2 同^ノ作書仕る

航^ノ編^ノ制^ノ附^ノ表^ノ如^ク挿^ノ入^ノ係

鎮^ノ守^ノ府^ノ摩^ノ下^ノ航^ノ係^ノ以^テ之[、]充^テ

六、航^ノ係^ノ清^ノ々^ノ者^ノ也
要^ノ求^ノ待^テ々^ノ別^ノ人^ノ也^ノ又^ノ航^ノ係^ノ

0900

附表

機員補機	罐	水兵員	信辨員	掃把應急員	軍醫科士官	機科將校	當直將校	指揮官		如賀田航員編制
					一	一	三(船長) 三(船醫)	一	士官	
						一	一(電)		准特務士官	
三(機)	四	一〇(電)	一	六(電)					下士官	
一六	八	三〇(電)	四						兵	
一八	一三	三〇	五	六	一	二	四	一	計	

海軍

平成十一年

主業員	船匠員	看護員	主計員	計	外二舟夫
				六	
				二	
一	二	一	二	二九	
一	二	一	三	一五五	一〇
二	四	二	五	一九二	③

小林勝

道 員